

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

米子工業高等専門学校学則

資料 1 - 1 - ① - 1

第 1 章 本校の目的

(目的)

第 1 条 米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(出典 学則)

第 8 章 専攻科

資料 1 - 1 - ① - 2

(設置)

第 46 条 本校に、専攻科を置く。

(目的)

第 47 条 専攻科は、高等専門学校における教育の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もつて広く産業の発展に寄与する創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

(出典 学則)

I 本校の目的

- ・ 米子工業高等専門学校は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
- ・ 専攻科は、高等専門学校における教育の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もつて広く産業の発展に寄与する創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

II 本校の教育目標

1. 教育理念

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う。

2. 養成すべき人材像

本校では、この教育理念に基づき、次のような人材を養成することを目標にしています。

- ① 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
- ② 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
- ③ 主体的に問題を発見し、それを解決していく能力を有する人材
- ④ 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
- ⑤ 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

3. 学習・教育目標

本校では、上記の人材を養成するため、学生が身につけるべき能力として次の学習・教育目標を定めています。

- A 技術者としての基礎力
- B 持てる知識を使う応用力
- C 社会と自らを高める発展力
- D 地球の一員としての倫理力
- E 社会とかかわるためのコミュニケーション力

5. 達成目標

本校では、上記の学習・教育目標に基づき本科卒業時及び専攻科修了時において、学生が具体的に身に付けるべき能力として次のような達成目標を定めています。

【 】内の記号は、上記の学習・教育目標との対応を示しています。

【本科学生の達成目標】

- ① 学び習得した知識を適切に表現し、活用することができる。【A】
- ② 実験等で得られた結果について、すでに学んだ知識をもとに分析し、報告することができる。【B】
- ③ 関心のある分野について継続的に学習していくことができる。【C】
- ④ 地球や地域の環境保全を念頭に置きながら、社会生活を送ることができる。【D】
- ⑤ 日本語及び英語の資料等を読み、適切に理解することができる。【E】
- ⑥ 自らの考え等について分かりやすく関係者に説明することができる。【E】

【専攻科学生の達成目標】

- ① 工学に関する様々な問題等を自ら発見することができる。【A】
- ② 発見した問題を解析し、自ら設定した行動計画の下で解決することができる。【B】
- ③ 専門的な英語の文献等を読み、理解することができる。【E】
- ④ 自らの専門的知識・技術及び関連する分野の知識について、時代の進展に対応し、フォローアップすることができる。【C】
- ⑤ 持続可能な社会を念頭に置きながら、仕事その他の社会生活を送ることができる。【D】
- ⑥ 問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞きながら適切に作業を進めることができる。【E】
- ⑦ 専門分野の課題について報告書等を作成し、適切な資料を用いて関係者に分かりやすく説明することができる。【E】

4. 学科および専攻ごとの教育目標

資料 1 - 1 - ① - 4

・教養教育科

教養教育科は、専門教育を習得するための基礎的な能力を育成するとともに、社会人として必要な知識、技術を教授し、人格を形成し、教養を豊かにし、国際社会の中で活躍できる有為な人材を育てる。

・機械工学科

機械工学科は、機構、構造、材料などの運動や力学に関する基礎知識を基に、機械システムを設計・開発する能力を有し、更にこのシステムをコントロール可能な機械制御システムとして扱うことができる実践的技術者の養成を目標とする。

・電気情報工学科

電気情報工学科は、電気エネルギーから情報通信に至るまで、電気・電子・情報関連の幅広い知識や技術を習得し、設計、開発、管理などの業務に従事できる実践的技術者の養成を目標とする。

・電子制御工学科

電子制御工学科は、コンピュータおよびロボット制御に関する専門的知識と技術を「情報」、「電気・電子」、「メカトロニクス」の各分野について幅広く修得することにより、ものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ実践的技術者の養成を目標とする。

・物質工学科

物質工学科は、化学及び生化学を基盤とし、それらから派生する工学の基礎知識と技術を備えた実践的技術者の養成を目標とする。

・建築学科

建築学科は、社会環境及び建築技術の革新に合わせた知識・技術を習得し、建築の企画、設計、生産に従事する創造的な実践的技術者の養成を目標とする。

・生産システム工学専攻

生産システム工学専攻は、本科で学んだ機械工学、電気情報工学、電子制御工学分野の基礎知識と技術を基に、他分野の幅広い知識を修得し、学際的な技術分野における問題解決能力を備えた実践的開発型技術者の養成を目標とする。

・物質工学専攻

物質工学専攻は、材料工学及び生物工学に関する基礎的な知識・技術と、それらを個別の問題に対して応用・発展させることのできる力を身につけ、幅広い視野に立って総合的な問題解決ができる実践的開発型技術者の養成を目標とする。

・建築学専攻

建築学専攻は、建築・都市・地域計画、建築環境及び建築構造に関する高度な知識と技術を身につけ、幅広い視野に立って問題解決できる創造性に富んだ実践的開発型技術者を養成することを目標とする。

(出典 平成 26 年度学生便覧 P. 2～3)

米子工業高等専門学校学則（抜粋）

第 3 章 学科，学級数，入学定員及び教職員組織

（学科，学級数及び入学定員）

第 7 条 学科，学級数及び入学定員は，次の表のとおりとする。

学科	学級数	入学定員
機械工学科	1	40人
電気情報工学科	1	40人
電子制御工学科	1	40人
物質工学科	1	40人
建築学科	1	40人

（学科の教育目標）

第 7 条の 2 各学科の教育目標は次のとおりとする。

（1）教養教育科は専門教育を習得するための基礎的な能力を育成するとともに，社会人として必要な知識，技術を教授し，人格を形成し，教養を豊かにし，国際社会の中で活躍できる有為な人材を育てる。

（2）機械工学科は，機構，構造，材料などの運動や力学に関する基礎知識を基に，機械システムを設計・開発する能力を有し，更にこのシステムをコントロール可能な機械制御システムとして扱うことができる実践的技術者の養成を目標とする。

（3）電気情報工学科は，電気エネルギーから情報通信に至るまで，電気・電子・情報関連の幅広い知識や技術を習得し，設計，開発，管理などの業務に従事できる実践的技術者の養成を目標とする。

（4）電子制御工学科は，コンピュータおよびロボット制御に関する専門的知識と技術を「情報」，「電気・電子」，「メカトロニクス」の各分野について幅広く修得することにより，ものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ実践的技術者の養成を目標とする。

（5）物質工学科は，化学及び生化学を基盤とし，それらから派生する工学の基礎知識と技術を備えた実践的技術者の養成を目標とする。

（6）建築学科は，社会環境及び建築技術の革新に合わせた知識・技術を習得し，建築の企画，設計，生産に従事する創造的な実践的技術者の養成を目標とする。

（出典 学則）

第 8 章 専攻科

(設置)

第 46 条 本校に、専攻科を置く。

(目的)

第 47 条 専攻科は、高等専門学校における教育の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

(専攻及び入学定員)

第 48 条 専攻及び入学定員は、次の表のとおりとする。

(専攻の教育目標)

第 48 条の 2 各専攻の教育目標は次のとおりとする。

専攻	入学定員
生産システム工学専攻	12人
物質工学専攻	4人
建築学専攻	4人

(1)生産システム工学専攻は、本科で学んだ機械工学、電気情報工学、電子制御工学分野の基礎知識と技術を基に、他分野の幅広い知識を修得し、学際的な技術分野における問題解決能力を備えた実践的開発型技術者の養成を目標とする。

(2)物質工学専攻は、材料工学及び生物工学に関する基礎的な知識・技術と、それらを個別の問題に対して応用・発展させることのできる力を身につけ、幅広い視野に立って総合的な問題解決ができる実践的開発型技術者の養成を目標とする。

(3)建築学専攻は、建築・都市・地域計画、建築環境及び建築構造に関する高度な知識と技術を身につけ、幅広い視野に立って問題解決できる創造力に富んだ実践的開発型技術者を養成することを目標とする。

(出典 学則)

本校の教育目標

Goal of College Education

本校の目的

【本科】

米子工業高等専門学校は、教育基本法(昭和 22年法律第 25号)の精神にのっとり、学校教育法(昭和 22年法律第 26号)に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

【専攻科】

専攻科は、高等専門学校における教育の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

教育理念

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う。

養成すべき人材像

教育理念に基づき、次のような人材を養成する。

1. 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
2. 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
3. 主体的に問題を発見し、それを解決していく能力を有する人材
4. 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
5. 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

学習・教育目標

本校では目指すべき技術者を養成するため、学生に以下の能力が身につくよう教育を行う。

1. 技術者としての基礎力
2. 持てる知識を使う応用力
3. 社会と自らを高める発展力
4. 地球の一員としての倫理力
5. 社会とかかわるためのコミュニケーション力



学科及び専攻ごとの教育目標

Goal of each Department and Advanced Course

教養教育科

教養教育科は、専門教育を習得するための基礎的な能力を育成するとともに、社会人として必要な知識、技術を教授し、人格を形成し、教養を豊かにし、国際社会の中で活躍できる有為な人材を育てる。

機械工学科

機械工学科は、機構、構造、材料などの運動や力学に関する基礎知識を基に、機械システムを設計・開発する能力を有し、更にこのシステムをコントロール可能な機械制御システムとして扱うことができる実践的技術者の養成を目標とする。

電気情報工学科

電気情報工学科は、電気エネルギーから情報通信に至るまで、電気・電子・情報関連の幅広い知識や技術を習得し、設計、開発、管理などの業務に従事できる実践的技術者の養成を目標とする。

電子制御工学科

電子制御工学科は、コンピュータおよびロボット制御に関する専門的知識と技術を「情報」、「電気・電子」、「メカトロニクス」の各分野について幅広く修得することにより、ものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ実践的技術者の養成を目標とする。

物質工学科

物質工学科は、化学及び生化学を基盤とし、それらから派生する工学の基礎知識と技術を備えた実践的技術者の養成を目標とする。

建築学科

建築学科は、社会環境及び建築技術の革新に合わせた知識・技術を習得し、建築の企画、設計、生産に従事する創造的な実践的技術者の養成を目標とする。

生産システム工学専攻

生産システム工学専攻は、本科で学んだ機械工学、電気情報工学、電子制御工学分野の基礎知識と技術を基に、他分野の幅広い知識を修得し、学際的な技術分野における問題解決能力を備えた実践的開発型技術者の養成を目標とする。

物質工学専攻

物質工学専攻は、材料工学及び生物工学に関する基礎的な知識・技術と、それらを個別の問題に対して応用・発展させることのできる力を身につけ、幅広い視野に立って総合的な問題解決ができる実践的開発型技術者の養成を目標とする。

建築学専攻

建築学専攻は、建築・都市・地域計画、建築環境及び建築構造に関する高度な知識と技術を身につけ、幅広い視野に立って問題解決できる創造性に富んだ実践的開発型技術者を養成することを目標とする。

達成目標

Achievement Objectives

本校では、学習・教育目標に基づき本科卒業時及び専攻科修了時において、学生が具体的に身に付けておきたい能力として次のような達成目標を定めています。

本科学生の達成目標

- 1 学び習得した知識を適切に表現し、活用することができる。
- 2 実験等で得られた結果について、すでに学んだ知識をもとに分析し、報告することができる。
- 3 関心のある分野について継続的に学習していくことができる。
- 4 地球や地域の環境保全を念頭に置きながら、社会生活を送ることができる。
- 5 日本語及び英語の資料等を読み、適切に理解することができる。
- 6 自らの考え等について分かりやすく関係者に説明することができる。

専攻科学生の達成目標

- 1 工学に関する様々な問題等を自ら発見することができる。
- 2 発見した問題を解析し、自ら設定した行動計画の下で解決することができる。
- 3 専門的な英語の文献等を読み、理解することができる。
- 4 自らの専門的知識・技術及び関連する分野の知識について、時代の進展に対応し、フォローアップすることができる。
- 5 持続可能な社会を念頭に置きながら、仕事その他の社会生活を送ることができる。
- 6 問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞きながら適切に作業を進めることができる。
- 7 専門分野の課題について報告書等を作成し、適切な資料を用いて関係者に分かりやすく説明することができる。

アドミッションポリシー(入学者受入方針)

Admission Policy

本校では、入学者として次のような人を広く求めています。

本科

- 1 ものづくりに関心があり、基礎学力を持った人
- 2 自ら見つけた目標を達成するために挑戦していける人
- 3 文化や自然環境を大切にする人

編入学

- 1 専門分野の基礎となる学力を有する人
- 2 自ら創意工夫をして物事に積極的かつ継続的に取り組める人
- 3 文化や自然環境に対する広い視野を持ち、周囲の人と協調しつつコミュニケーションができる人

専攻科

- 1 基本的知識を有し、さらに高度な専門的知識を学びたい人
- 2 主体的に物事に取り組み、解決しようとする意欲のある人
- 3 学んだ技術を生かして社会に貢献する意欲のある人
- 4 他の人と協調しながら物事に取り組める人

本校の教育目標

1. 教育理念

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う。

2. 養成すべき人材像

本校では、この教育理念に基づき、次のような人材を養成することを目標としています。

- ① 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
- ② 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
- ③ 主体的に問題を発見し、それを解決して行く能力を有する人材
- ④ 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
- ⑤ 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

3. 学習・教育目標

本校では、上記の人材を養成するため、学生が身につけるべき能力として以下の学習・教育目標を定めています。

- ① 技術者としての基礎力
- ② 持てる知識を使う応用力
- ③ 社会と自らを高める発展力
- ④ 地球の一員としての倫理力
- ⑤ 社会とかがかわるためのコミュニケーション力

4. 達成目標

本校では、上記の学習教育・目標に基づき本科卒業時及び専攻科修了時において、学生が具体的に身に付けておきたい能力として以下のような達成目標を定めています。

【本科学生の達成目標】

- ① 学び習得した知識を適切に表現し、活用することができる。
- ② 実験等で得られた結果について、すでに学んだ知識をもとに分析し、報告することができる。
- ③ 関心のある分野について継続的に学習していくことができる。
- ④ 地球や地域の環境保全を念頭に置きながら、社会生活を送ることができる。
- ⑤ 日本語及び英語の資料等を読み、適切に理解することができる。
- ⑥ 自らの考え等について分かりやすく関係者に説明することができる。

【専攻科学生の達成目標】

- ① 工学に関する様々な問題等を自ら発見することができる。
- ② 発見した問題を解析し、自ら設定した行動計画の下で解決することができる。
- ③ 専門的な英語の文献等を読み、理解することができる。
- ④ 自らの専門的知識・技術及び関連する分野の知識について、時代の進展に対応し、フォローアップすることができる。
- ⑤ 持続可能な社会を念頭に置きながら、仕事その他の社会生活を送ることができる。
- ⑥ 問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞きながら適切に作業を進めることができる。
- ⑦ 専門分野の課題について報告書等を作成し、適切な資料を用いて関係者に分かりやすく説明することができる。

(出典 校外向け Web ページ)

学科・専攻ごとの教育目標

◆教養教育科

教養教育科は、専門教育を習得するための基礎的な能力を育成するとともに、社会人として必要な知識、技術を教授し、人格を形成し、教養を豊かにし、国際社会の中で活躍できる有為な人材を育てる。

◆機械工学科

機械工学科は、機構、構造、材料などの運動や力学に関する基礎知識を基に、機械システムを設計・開発する能力を有し、更にこのシステムをコントロール可能な機械制御システムとして扱うことができる実践的技術者の養成を目標とする。

◆電気情報工学科

電気情報工学科は、電気エネルギーから情報通信に至るまで、電気・電子・情報関連の幅広い知識や技術を習得し、設計、開発、管理などの業務に従事できる実践的技術者の養成を目標とする。

◆電子制御工学科

電子制御工学科は、コンピュータおよびロボット制御に関する専門的知識と技術を「情報」、「電気・電子」、「メカトロニクス」の各分野について幅広く修得することにより、ものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ実践的技術者の養成を目標とする。

◆物質工学科

物質工学科は、化学及び生化学を基盤とし、それらから派生する工学の基礎知識と技術を備えた実践的技術者の養成を目標とする。

◆建築学科

建築学科は、社会環境及び建築技術の革新に合わせた知識・技術を習得し、建築の企画、設計、生産に従事する創造的な実践的技術者の養成を目標とする。

◇生産システム工学専攻

生産システム工学専攻は、本科で学んだ機械工学、電気、電子制御工学分野の基礎知識と技術を基に、他分野の幅広い知識を修得し、学際的な技術分野における問題解決能力を備えた実践的開発型技術者の養成を目標とする。

◇物質工学専攻

物質工学専攻は、材料及び生物に関する基礎的な知識・技術と、それらを個別の問題に対して応用・発展させることのできる力を身につけ、幅広い視野に立って総合的な問題解決ができる実践的開発型技術者の養成を目標とする。

◇建築学専攻

建築学専攻は、建築・都市・地域計画、建築環境及び建築構造に関する高度な知識と技術を身につけ、幅広い視野に立って問題解決できる創造性に富んだ実践的開発型技術者を養成することを目標とする。

(出典 校外向け Web ページ)

H2 5 学校要覧配付先一覧

資料 1 - 2 - ① - 3

文科省・機構・高専・大学関係 72

文科省高等教育局専門教育課高等専門学校係
 国立高等専門学校機構(4)
 国立高等専門学校(54)
 中国地区国立大学法人等(10)
 (鳥取大、島根大、鳥取環境大、岡山大、広島大、山口大、江田島青少年交流の家、山口徳地青少年自然の家、吉備青少年自然の家、三瓶青少年交流の家)
 豊橋技術科学大学
 長岡技術科学大学
 国立大学財務・経営センター

県・市関係 8

鳥取県 境港市
 島根県 倉吉市
 米子市 松江市
 鳥取市 安来市

連携協定締結先等 7

米子文化財団
 商工組合中央金庫米子支店
 米子信用金庫
 (財)鳥取県産業振興機構
 鳥取県産業技術センター(3)

名誉教授 37

飯田 益雄	橋口 清人	石原 幸彦	坪井 正毅
服部 信	藪内 卓男	杉山 光則	川端 康洋
鈴木 充	坂田 友宏	足立 孝三	和田 嘉宥
杉浦 哲郎	奥村 平治	湯原 章	大原 啓道
水島 和夫	岩倉 稔	油木 兵衛	足立 新治
田丸 武好	瀬古 勲	岡 謙吉	片木 克男
石賀 英亮	桃井 祐一	林 貞男	雜賀 憲昭
横井 武長	木谷 愿	澤 洋征	
宮川 研二	馬庭 淳悦	藤田 忠義	
太田 富雄	綾木 義和	千葉 敦生	

米子高専同窓会事務局 15

首都圏同窓会(5)
 関西地区同窓会(5)
 中部地区同窓会(5)

教職員 38

校長	事務部長
校長補佐(企画)	総務課長
校長補佐(国際交流)	学生課長
校長補佐(教務)	総務課課長補佐(総務)
校長補佐(学生)	総務課課長補佐(財務)
校長補佐(寮務)	
校長補佐(専攻科)	総務課(総務部門)(3)
機械工学科長	(総務、人事、企画)
電気情報工学科長	総務課(財務部門)(3)
電子制御工学科長	(財務、契約、施設)
物質工学科長	学生課(4)
建築学科長	(教務・キャリア、学生係、寮務、学術情報)
教養教育科長	技術教育支援センター技術長
図書館情報センター長	技術教育支援センター技術専門員(2)
地域共同テクノセンター長	技術教育支援センター第1技術班長
キャリア支援室長	技術教育支援センター第2技術班長
学生相談室長	女子寮寮母用
	警備員用

学生課 500

教務・キャリア支援係
 (進路指導、留学生、入試説明会、就職)

産学連携関係 600

PR用 520
 米子高専振興協会 80

後援会 50

来校者用 172

保存用 1

計 1500 冊

(出典 総務課総務係資料)

平成25年度学校要覧

www.yonago-k.ac.jp/userfiles/File/gakkouyouuran25_2/kousen/#page=1

フルスクリーン

目次・ビジュアル
目次・テキスト
目次・付録リスト
閉じる

(平成 26 年 7 月には、平成 26 年度学校要覧の電子ブックを校外向け Web ページで公開予定)

COLLEGE INFORMATION
平成25年度 国立米子工業高等専門学校
学校要覧
YONAGO NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY
YONAGO NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY 2013

国立米子工業高等専門学校
Yonago National College of Technology

検索 PDF 印刷 拡大 縮小 ペン 付箋 操作ヘルプ

1 自動めくり

(出典 校外向け Web ページ 平成 25 年度学校要覧)

資料 1 - 2 - ① - 5

資料 1

平成 25 年 4 月 2 日

教員会議

平成 25 年度米子高専運営方針等

校長 齊藤正美

1. 教育理念等

教育理念

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う。

養成すべき人材像

- ① 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養をもつ人材
- ② 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
- ③ 主体的に問題を発見し、それを解決していく能力を有する人材
- ④ 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
- ⑤ 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

学習・教育目標

上記人材を育成するため、学生が身につけるべき能力としての学習・教育目標を次のとおり掲げる

- A 技術者としての基礎力
- B 持てる知識を使う応用力
- C 社会と自らを高める発展力
- D 地球の一員としての倫理力
- E 社会とかかわるためのコミュニケーション力

2. 運営の基本方針

(出典 平成 25 年 4 月 2 日教員会議資料)

運営会議議事要旨（抜粋）

- 1 日 時 平成 25 年 4 月 2 日（火） 10:30～11:45
- 2 出席者 校長，校長補佐（企画），校長補佐（国際交流），校長補佐（教務），校長補佐（学生），校長補佐（寮務），校長補佐（専攻科），地域共同テクノセンター長，事務部長，総務課長，学生課長

3 議事要旨

議事に先立ち，校長から新しい運営会議メンバーの紹介があった。

【審議事項】

（1）平成 25 年度米子高専運営方針等について

校長から，資料 1（平成 25 年度米子高専運営方針等）に基づき，高専機構の方針に則り作成した平成 25 年度米子高専運営方針，特に本年度の重点課題について説明があり承認された。

（出典 平成 25 年 4 月 2 日運営会議議事録）

事務部連絡会議事要旨

日時 平成 26 年 4 月 23 日 (水) 9:30~10:10
場所 小会議室
出席者 東事務部長、余村総務課長、下元学生課長、角田総務課長補佐 (総務担当)、
角西総務係長、角田人事労務係長、福島財務係長、北尾契約係長、矢田貝教
務・キャリア支援係長、荒木学生係長、小村寮務係長、濱田学術情報係長、
大谷技術長、谷本技術専門員
(欠席) 清水総務課長補佐 (財務担当)、田中企画社会連携係長

議事に先立ち、大塚校長補佐 (企画) から資料に基づき、平成 26 年度機関別認
証評価と JABEE 中間審査について説明があり、全学的な周知と資料作成について協力依頼があ
った。
また、本校の教育目標、達成目標についても事務部において改めて周知願いたい
旨依頼があった。

- 事務部長
業務に対し率先して取組み、自ら担当を熟していくよう訓示があった。また、今
後は機構の第 3 期中期計画を基に本校で作成する中期計画・年度計画が業務のベースとなるので、
何をいつまでにやるべきか認識しつつ業務にあたってほしい旨話があった。
- 学科長会議報告
余村総務課長から 4 月 26 日に開催された学科長会議の議事について、議題に沿って説明があ
った。
- 総務課
(総務担当)
角田総務課長補佐 (総務担当) から改めて、機関別認証評価、創立 50 周年記念事業への協
力依頼があった。
角西総務係長から 4 月 24 日に新任教員を対象とした初任者研修を実施する旨報告があった。
同研修のうち「ビジネスマナー講習会」については新任教員以外でも参加いただきたい旨案内
があった。
また、4 月 26 日に図書館の竣工式を実施する旨報告があった。
(財務担当)
福島財務係長から 5 月 21 日に地震・火災を想定した防災避難訓練を実施する旨、後日関係
各署へ協力依頼する旨報告があった。
高専体育大会の運営経費について、監査法人からの指摘を受け、今後は機構が示す指針によ
り経理処理を行うこととなる旨説明があった。
- 学生課
矢田貝教務・キャリア支援係長から専攻科入学者選抜検査の日程について説明があった。
荒木学生係長から 4 月 24 日の「健康の日」に対する協力依頼があった。
小村寮務係長から 4 月 23 日に火災を想定した寮の避難訓練を実施する旨報告があった。
濱田学術情報係長から図書館情報センターの改修工事が終了し、4 月 7 日から図書館が開館
した旨報告があった。
- 技術教育支援センター
谷本技術専門員から、学生の「ものづくりセンター」の 17 時以降の使用について、指導教
員の責任のもとに実施しているので理解いただきたい旨説明があった。

次回予定 5 月 30 日 (金) 9:30~

(出典 平成 26 年 4 月 23 日事務部連絡会議事要旨)

本校の教育目標（学生便覧より抜粋）

2014. 4. 23（水）事務部連絡会資料

本校の目的

米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

専攻科は、高等専門学校における教育の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

教育理念

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う。

養成すべき人材像

本校では、この教育理念に基づき、次のような人材を養成することを目標にしています。

- ① 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
- ② 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
- ③ 主体的に問題を発見し、それを解決していく能力を有する人材
- ④ 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
- ⑤ 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

学習・教育目標

本校では、上記の人材を養成するため、学生が身につけるべき能力として次の学習・教育目標を定めています。

- A 技術者としての基礎力
- B 持てる知識を使う応用力
- C 社会と自らを高める発展力
- D 地球の一員としての倫理力
- E 社会とかかわるためのコミュニケーション力

（中略）

達成目標

本校では、上記の学習・教育目標に基づき本科卒業時及び専攻科修了時において、学生が具体的に身に付けるべき能力として次のような達成目標を定めています。

【 】内の記号は、上記の学習・教育目標との対応を示しています。

【本科学生の達成目標】

- ① 学び習得した知識を適切に表現し、活用することができる。【A】
- ② 実験等で得られた結果について、すでに学んだ知識をもとに分析し、報告することができる。【B】
- ③ 関心のある分野について継続的に学習していくことができる。【C】
- ④ 地球や地域の環境保全を念頭に置きながら、社会生活を送ることができる。【D】
- ⑤ 日本語及び英語の資料等を読み、適切に理解することができる。【E】
- ⑥ 自らの考え等について分かりやすく関係者に説明することができる。【E】

（出典 平成 26 年 4 月 23 日事務部連絡会資料）

【専攻科学生の達成目標】

- ① 工学に関する様々な問題等を自ら発見することができる。【A】
- ② 発見した問題を解析し、自ら設定した行動計画の下で解決することができる。【B】
- ③ 専門的な英語の文献等を読み、理解することができる。【E】
- ④ 自らの専門的知識・技術及び関連する分野の知識について、時代の進展に対応し、フォローアップすることができる。【C】
- ⑤ 持続可能な社会を念頭に置きながら、仕事その他の社会生活を送ることができる。【D】
- ⑥ 問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞きながら適切に作業を進めることができる。【E】
- ⑦ 専門分野の課題について報告書等を作成し、適切な資料を用いて関係者に分かりやすく説明することができる。【E】

(出典 平成 26 年 4 月 23 日 事務部連絡会資料)

新年度特集

新年度にあたって



米子高専の教育目標は、「創造性ゆたかな実践的技術者の育成」にあります。グローバル化が進んで今日の社会状況の中では、技術者に限らず、ひとりひとりの創造力と実践力がとりわけ重要になります。それを「生きる力」と言っても良いし、「人間力」といっても構いませんが、学生諸君には、そのような力を学校にいる間に是非身につけてほしいと考えています。

私が赴任してきた平成22年度から、「学生が生き生きとしている学校」「地域社会に信頼される学校」「教職員が働きがいのある学校」のキャッチフレーズを掲げて学校を運営しています。良い学校であるかどうかは、まず学生諸君が生き生きしているかどうか判断の目安になります。挨拶と礼儀、授業での真剣さ、学生や教職員同士のコミュニケーション、学校行事や部活・課外活動がしっかりできているかなどが決め手になります。これらの一つ一つについて述べる紙数はありませんが、昨年度の学生諸君の活躍を振り返ると、今皆さんは充分生き生きしていると考えています。つい先日「国立高専だより」VOL.13が発行されました。全国に国立高専は51校（55キャンパス）ありますが、学生の活躍を紹介する14のトピックスの中の、なんと4つ

校長 齊藤 正美

が米子高専の記事でした。それらを列挙すると、「第59回NHK杯全国高校放送コンテストにて準優勝」「第67回国民体育大会（2012ぎふ清流国体）セーリング競技少年少女セーリングスピリッツ級で優勝」「第9回高校化学グランドコンテストで2連覇を達成」「第16回スターリングテクノロジー2部門で日本一を獲得」。それぞれが全国レベルの活躍であり、立派なものです。この広報誌には掲載されていませんが、全国高専デザコン2012における国土交通大臣賞の受賞、つい最近では県高校総体（インターハイ予選）卓球競技の女子ダブルスで優勝（＝全国大会出場）などもあります。

このような「生きる力」をより一層つけてもらうために、今後はとくに国際性の涵養と英語力の向上、視野を広げるための「読書力」の向上にも力を入れたいと思います（読書量については本校の学生はまだまだ足りません）。来年3月には、長年計画していた図書館情報センターの大改修が終わり、新しい建物＝より安全でより快適な教育施設へと生まれ変わります。また、これを機に、皆さんが集いやすく学習意欲が生まれる施設となるよう、新たに「コミュニティ・プラザ」の設立も計画しています。これにより、皆さんの読書量が増えることを願っています。今年一年、学生諸君一人一人が自分自身のためのキャッチフレーズを掲げて、充実した学生生活を送って下さい。

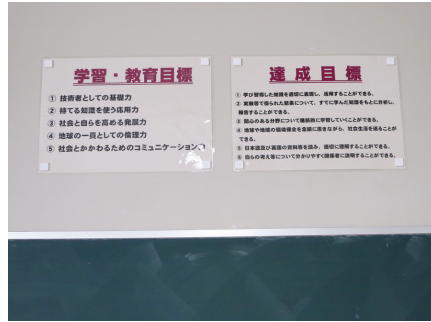
（出典 平成 25 年 7 月発行 広報誌彦名通信第 173 号 P.2）

資料 1 - 2 - ① - 9

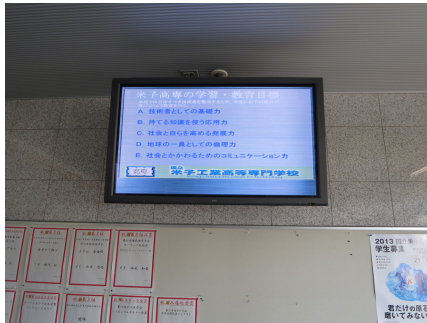
パネル掲示 (正面玄関)



講義室掲示 (黒板上部)



電子掲示板 (正面玄関)



(出典 正面玄関、講義室写真)

資料 1 - 2 - ① - 10

平成25年度 修学ガイダンス日程表

平成25年4月2日

時限	4月5日(金)	4月8日(月)	4月9日(火)	4月10日(水)	4月11日(木)
1	LHR(担任:HR) ・クラスガイダンス (含:登壇時対応、一斉連絡システム) ・クラス写真撮影	SHR(担任:HR) キャリア支援ガイダンス 8:55~10:20 (キャリア支援:合同講義室)(85分) ・ガイダンス	SHR(担任:HR) 学生相談ガイダンス 8:55~9:35(40分) (学生相談:合同講義室) ・ガイダンスとカウンセラー紹介	SHR(担任:HR) 校内オリエンテーション 8:55~10:40 (教務・学生:合同講義室)(105分) ・教務主事の講話 ・教務ガイダンス(シラバスの見方等) ・学生主事の講話 ・学生ガイダンス	大山オリエンテーション (教務・担任) ・点呼 ・朝食 ・クラス行事2 ・OBOGを囲む会 ・感想文他 ・昼食 ・大山寺周辺散策 ・移動(約1時間)
2			学科ガイダンス 9:45~12:05(140分) (学科)		
3		一般科目カリキュラムガイダンス (教養教育科長:合同講義室) 10:30~11:15(45分)	【モデルプラン】 ・教員紹介 ・卒業後の進路説明 ・学科施設ガイダンス ・実験ガイダンス(1週目分) など	大山オリエンテーション 11:00 (教務・担任) ・移動(約1時間) ・昼食 ・全体行事 ・校長挨拶 ・校歌練習 ・高専について ・クラス行事1 ・自己紹介 ・委員選出他 ・夕食 ・風呂	※詳細は別紙参照
4	学力診断テスト(担任:学科:HR) ・数学(50分) 11:15~12:05 ※留年生は教務主事面談and自習 (対応は教務)	専門科目カリキュラムガイダンス (学科長:HR) 11:25~12:05(40分)	※内容・担当は各学科に委ねる		
5	学力診断テスト (担任:学科:HR) ・英語(50分) 12:50~13:40 ・理科(50分) 13:50~14:40	各種ガイダンス① 12:50~13:45~14:40~ (クラス単位でローテーション) ・図書館ガイダンス(45分) (図書情報:図書館) ・情報端末ガイダンス(45分) (図書情報:情リテ担当:端末室) ・校内施設ガイダンス(45分) (学科:校内)	各種ガイダンス② (前日の続き) 12:50~13:45~ 各種アンケートの内容 ・入学生アンケート ・UPI ・生活学習意識調査 ※留年生は自習 (対応は担任)		
6	LHR(担任:HR) ※留年生は教務主事面談and自習 (対応は教務)	体育施設ガイダンス(45分) (体育:体育施設) ・各種アンケート(45分) (担任:HR) ※ローテーションは別途案内	環境ガイダンス (環境担当:合同講義室) 教室清掃ガイダンス (担任:HR) 14:40~15:25(45分)		
7					
放課後	女子学生ガイダンス 15:35~ (学生:合同講義室)	【希望者のみ】 電子辞書の使い方の講習会 (外国語科:合同講義室) 15:45~17:00			

※ 修学ガイダンス対応と2年生以上の授業が重複する場合、①授業代替、②補講措置等でご対応ください
 ※ 1年生の科目担当はシラバス1週目に「修学ガイダンス」とご記載ください
 ※ 「修学ガイダンス」期間中の欠席は、該当する曜日・時間における通常授業の欠席

(出典 平成 25 年 4 月 2 日 教員会議資料)

JABEE (日本技術者教育認定制度) Japan Accreditation Board for Engineering Education に関する説明会

JABEEホームページ <http://www.jabee.org/>

米子高専JABEEホームページ
<http://www.yonago-k.ac.jp/jabee/>

JABEE委員会
2013/04/25

日本技術者教育認定機構(JABEE)について 2003.06.25 1

複合システムデザイン工学プログラム 教育目標

本校学習教育目標	達成目標	a	b	c	d	e	f	g	h
A 技術者としての基礎力	工学に関する様々な問題を自ら発見することができる。		○	◎	◎		○		
B 持てる知識を使う応用力	発見した問題を解析し、自ら設定した行動計画のちから解決することができる。			○	○	◎			◎
C 社会と自らを高める発展力	自らの専門的知識・技術及び関連する分野の知識について、時代の進展に対応しフォローアップすることができる。						○		◎ ○
D 地球の一員としての倫理力	持続可能な社会を念頭に置きながら、仕事その他の社会生活を営むことができる。	◎	◎						○
E 社会とかわかるとのコミュニケーション力	専門的な英語の文献等を読み、理解することができる。	○	○				◎		
	問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞きながら適切に作業を進めることができる。	○	○				◎		
	専門分野の課題について報告書等を作成し、適切な資料を用いて関係者に分かりやすく説明することができる。	○	○				◎		

JABEE目標

- a 地球の視点
- b 技術者倫理
- c 数学・自然科学・情報技術の知識・応用力
- d 専門技術の知識・応用力

- e デザイン能力
- f コミュニケーション能力 (日本語・国際的)
- g 自主的・継続学習
- h 計画的に仕事を進め、まとめる能力

日本技術者教育認定機構(JABEE)について 2003.06.25 2

(出典 平成 25 年 4 月 25 日 JABEE 説明会資料抜粋)

平成 26 年度 専攻科・入学式ガイダンス 資料 1 - 2 - ① - 12

1. 日程

- 11:30 専攻科長挨拶
- 11:35 配布資料の説明, 諸連絡など
- 13:00 図書館情報センターガイダンス (図書館ロビー集合: 対象は本校卒業生以外)

2. 配布資料等

- ・ 授業時間割 (平成 26 年度前期)
- ・ 学生便覧, 学生証 (発行機用パスワード添付)
- ・ 専攻科の目的などについて
- ・ JABEE (日本技術者教育認定制度) について
- ・ 平成 26 年度 専攻科 履修の手引き, 履修届
- ・ 情報端末パスワード
- ・ 特別研究題目・指導教員調査書

3. 諸連絡

- 写真撮影・・・4/7 (月) 昼休憩 (12:05 頃), 正面玄関に集合 (品位のある服装で)
- 専攻科生への連絡・・・シアター横の掲示板, または電光掲示板
- 配布物: 2F リフレッシュルームのメールボックスへ (各自こまめにチェックすること)
- 履修について
 - ・ 履修する教科の最初の講義には必ず出席し, ガイダンスを受けること
 - ・ 初回ガイダンスを受けずに履修を申告しないこと
 - ・ 履修を取りやめた場合には必ず学生課に連絡すること
 - ※ 「履修届」には 2 年間 (1 年と 2 年) に修得予定の履修教科すべてに○を記入すること
(4/14 (月) まで)
- 履修する科目について
 - ・ 専攻科修了単位と学位授与に必要な単位は異なるので注意すること
 - ・ 履修科目の選択については「履修の手引き」を参考に, 申請予定の学位に必要な単位を修得するように履修計画を立てて下さい
(平成 26 年度から大幅な変更を行ったので, 不明な点は問い合わせください)
 - ・ シラバス参照 (校内 HP よりアクセス <http://172.16.1.201/syllabus/>)
(本校以外で修得した単位の科目分類については, 出身校のシラバス等を参考に各自で分類し, 履修計画を立てて下さい)
- 学位授与までの流れ・・・平成 27 年度申請分より変更
※ 大学評価・学位授与機構 <http://www.niad.ac.jp/> の【学位授与事業】参照
- 1/3 を超える欠席は単位が認められない
・ 忌引, 就職や進学, 学会参加などに関わる欠席については, 「特別欠席届 (印は特別研究指導教員)」を必ず提出すること
- 書類等・・・「在学証明書」, 「学割」等は学生課横の自動発行機にて取得すること (配布したパスワードが必要です)
- 掃除当番: 掃除当番表 (掲示板に掲示) を確認して掃除すること
- 学生事故, カンニングは本科よりも厳しい措置になる場合もあるので注意
- 日本学生支援機構奨学生募集に関する説明会について (掲示板に掲示)
・ 奨学金の申込を希望する学生は必ず出席すること
- 授業料免除の申請について (掲示板に掲示)
- 車両通学許可の申請について (掲示板に掲示)
- 車両通学届について (→ 回覧するので記入して下さい)

4. 健康診断

- 4/24 (木) 「健康の日」に実施 (詳細は後日連絡します)

(出典 平成 26 年 4 月 4 日 専攻科ガイダンス資料)

専攻科の目的などについて

1. 教育理念

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う。

2. 養成すべき人材像

教育理念に基づき、次のような人材を養成することを目標としている。

- ① 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
- ② 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
- ③ 主体的に問題を発見し、それを解決して行く能力を有する人材
- ④ 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
- ⑤ 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

3. 学習・教育目標

上記の人材を養成するため、学生が身につけるべき能力として以下の学習・教育目標を定めている。

- A 技術者としての基礎力
- B 持てる知識を使う応用力
- C 社会と自らを高める発展力
- D 地球の一員としての倫理力
- E 社会とかかわるためのコミュニケーション力

4. 専攻科の目的

専攻科は、高等専門学校における教育の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

5. 達成目標

本校では、上記の学習教育・目標に基づき本科卒業時及び専攻科修了時において、学生が具体的に身に付けておきたい能力として以下のような達成目標を定めている。

- ① 工学に関する様々な問題等を自ら発見することができる。
- ② 発見した問題を解析し、自ら設定した行動計画の下で解決することができる。
- ③ 専門的な英語の文献等を読み、理解することができる。
- ④ 自らの専門的知識・技術及び関連する分野の知識について、時代の進展に対応し、フォローアップすることができる。
- ⑤ 持続可能な社会を念頭に置きながら、仕事その他の社会生活を送ることができる。
- ⑥ 問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞きながら適切に作業を進めることができる。
- ⑦ 専門分野の課題について報告書等を作成し、適切な資料を用いて関係者に分かりやすく説明することができる。

(出典 平成 26 年 4 月 4 日 専攻科ガイダンス資料)

6. 専攻ごとの教育目標

・生産システム工学専攻

生産システム工学専攻は、本科で学んだ機械工学，電気情報工学，電子制御工学分野の基礎知識と技術を基に，他分野の幅広い知識を修得し，学際的な技術分野における問題解決能力を備えた実践的開発型技術者の養成を目標とする。

・物質工学専攻

物質工学専攻は，材料及び生物に関する基礎的な知識・技術と，それらを個別の問題に対して応用・発展させることのできる力を身につけ，幅広い視野に立って総合的な問題解決ができる実践的開発型技術者の養成を目標とする。

・建築学専攻

建築学専攻は，建築・都市・地域計画，建築環境及び建築構造に関する高度な知識と技術を身につけ，幅広い視野に立って問題解決できる創造力に富んだ実践的開発型技術者を養成することを目標とする。

(出典 平成 26 年 4 月 4 日 専攻科ガイダンス資料)

資料 1 - 2 - ① - 13

平成 26 年 4 月 2 日
点検・評価委員会資料

平成 25 年度実施 企画部アンケートについて

企画担当校長補佐・企画部

企画部は例年に引き続き平成 26 年 2 月に「教職員、非常勤講師、修了・卒業予定者の達成度および各学年に対する教育目的等の周知に関するアンケート」、「学習・生活環境に関するアンケート」を実施した。

平成 25 年度は、本科学生には学年末補講期間に端末室でアンケート回答を実施し、教職員及び専攻科生には学内および学外のインターネット環境から回答できる仕組みで実施した。さらに、非常勤講師には紙面配布によって実施した。これらの結果、高いアンケート回答率を得ることができた。

教育目的等の周知状況は、教職員・専攻科生・本科 1 年生から 4 年生では例年と大差ないが、本科 5 年生の周知状況は若干低下した。なお、非常勤講師については教職員の結果をやや下回る程度の周知状況であった。特に本科 1 年生から 4 年生への周知状況では、例年同様 5 割～7 割程度であったため、今後もより一層の周知努力が必要である。

以下に、平成 25 年度の回答率、平成 24 年度アンケート結果との比較、学習・生活環境への改善要望を説明する。

平成 25 年度 企画部アンケート回答率

	対象者数	回答数	回答率
教職員 本校の教育目的等の周知に関するアンケート	145	137	94.5%
非常勤講師 本校の教育目的等の周知に関するアンケート		42	
専攻科 2 年生 本校の教育目的等の周知と達成度に関するアンケート	26	26	100.0%
本科 5 年生 本校の教育目的等の周知と達成度に関するアンケート	186	163	87.6%
専攻科 1 年生 本校の教育目的等の周知に関するアンケート	26	26	100.0%
本科 1 年から 4 年生 本校の教育目的等の周知に関するアンケート	823	762	92.6%
本科・専攻科の全学生 米子高専の学習・生活環境に関するアンケート	1060	976	92.1%

1. 本校の教育目的等の周知と達成度に関するアンケート結果（数字は 24 年→25 年）

① 教職員

- ・本校の目的の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 91%→90%
- ・本校の教育理念の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 91%→92%
- ・本校の養成すべき人材像の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 89%→93%
- ・本校の学習教育目標の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 92%→95%
- ・本科達成目標の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 88%→87%
- ・ J A B E E を意識している 89%

② 非常勤講師（平成 25 年度から教職員と別様式で実施・集計）

- ・本校の目的の周知 知っている・一部知っている 91%
- ・本校の教育理念の周知 知っている・一部知っている 93%
- ・本校の養成すべき人材像の周知 知っている・一部知っている 83%
- ・本校の学習教育目標の周知 知っている・一部知っている 86%
- ・本科達成目標の周知 知っている・一部知っている 79%

(出典 平成 26 年 4 月 2 日 点検・評価委員会資料)

③ 専攻科修了予定者 専攻科 2 年生

- ・本校専攻科の目的の周知 【向上】 知っている・一部知っている 82%→89%
- ・本校の教育理念の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 95%→93%
- ・本校の養成すべき人材像の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 100%→96%
- ・本校の学習教育目標の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 100%→96%
- ・達成度 【向上】 十分できる・一部できる 87%→100%
- ・J A B E E を意識している 複合：71→81% 建築：60→100%

④ 本科卒業予定者 5 年生

- ・本校の目的の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 60%→54%
- ・本校の教育理念の周知 【やや減少】 知っている・一部知っている 66%→56%
- ・本校の養成すべき人材像の周知 【やや減少】 知っている・一部知っている 71%→60%
- ・本校の学習教育目標の周知 【やや減少】 知っている・一部知っている 75%→67%
- ・達成度 【横ばい】 十分できる・一部できる 71%→71%
- ・J A B E E を意識している 複合：64%→61% 建築：53%→69%

⑤ 専攻科 1 年生

- ・本校専攻科の目的の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 89%→92%
- ・本校の教育理念の周知 【やや向上】 知っている・一部知っている 94%→99%
- ・本校の養成すべき人材像の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 100%→100%
- ・本校の学習教育目標の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 100%→100%
- ・達成目標の周知 【やや向上】 知っている・一部知っている 95%→100%
- ・J A B E E を意識している 複合：77%→100% 建築：100%→100%

⑥ 本科 1～4 年生

- ・本校の目的の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 54%→55%
- ・本校の教育理念の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 61%→61%
- ・本校の養成すべき人材像の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 65%→66%
- ・本校の学習教育目標の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 74%→75%
- ・達成目標の周知 【横ばい】 知っている・一部知っている 50%→51%

2. 本校の学習・生活環境に関するアンケート結果（全学生、数字は 24 年→25 年）

- ① 教室 使いやすい 48% → 使いやすい 26%+まあまあ使いやすい 60%
 - ・主な意見：冷暖房、D 棟教室の冷暖房、教室の狭さ、ロッカーが小さい、椅子がガタガタする
- ② 実験実習室 使いやすい 59% → 使いやすい 33%+まあまあ使いやすい 63%
 - ・主な意見：各学科の機器や実験器具の古さ、製図室など大教室の冷暖房
- ③ 情報処理センターの端末室及び端末 【H25 年度は改修中であつたため、評価せず】
 - ・主な意見：PC の起動と動作が遅い、インターネット規制の厳しさ、マウスパッドが必要、時間延長（仮設が原則 17 時までのため）
- ④ 図書館 【H25 年度は改修中であつたため、評価せず】
 - ・主な意見：新しい専門書が不足、小説が不足、開館時間延長（仮設が原則 17 時までのため）、早期の完成
- ⑤ 運動施設 使いやすい 33%+まあまあ使いやすい 60%（平成 25 年度に設問新設）
 - ・主な意見：第一体育館の床板の更新、グラウンドの除草・砂の改良・整備、体育館の照明器具更新
- ⑥ 福利厚生施設
 - ・高砂会館 主な意見：風呂場の老朽化
 - ・白砂会館 主な意見：ロビーの照明器具更新、洋式トイレ整備、製氷機の増設、防音性能の不足
 - ・食堂 主な意見：狭い
 - ・売店 主な意見：店内の臭い改善、椅子などが少ない

(出典 平成 26 年 4 月 2 日 点検評価委員会資料)

平成26年度 修学ガイダンス日程表

平成26年4月2日

時限	4月7日(月)	4月8日(火)	4月9日(水)	4月10日(木)	4月11日(金)
1	クラスガイダンス(担任:HR) 8:45~11:00 ・学生便覧の説明 ・誓約時対応、一斉連絡システム ・情報アカウントの配布 ・クラス写真撮影(学生:玄関前) ・図書館ガイダンス(図書館:図書館) (各学科15分)	SHR(担任:HR) 合同ガイダンス1(教務・学生:合同) 9:00~10:20 ・教務主事、学生主事の講話 ・教務ガイダンス(学習教育目標、到達目標含む) ・学生ガイダンス	HR(担任:HR) 合同ガイダンス2(学相・教養・環境担当:合同) 9:00~10:20 学生相談ガイダンス 一般科目カリキュラムガイダンス 環境ガイダンス	SHR(担任:HR) 大山オリエンテーション(担任:教務) ・移動(約45分) ・植田正治写真美術館 ・ホテルへ移動(約20分) ・昼食 ・全体行事 校長挨拶 校歌練習 高専について ・クラス行事1 自己紹介 委員選出 ・夕食 ・風呂	大山オリエンテーション(担任:教務) ・点呼 ・朝食 ・クラス行事2 5年生を囲む会 感想文他 ・昼食 ・大山寺周辺教養 ・移動(約1時間) ※詳細は別途案内
2	※クラス写真撮影、図書館ガイダンスのローテーションは別途案内	休館施設ガイダンス(学科:校内) 10:30~11:15 ※順路は別途案内	学科ガイダンス(学科) 10:30~13:35 【モデルプラン】 ・学科の紹介 ・学科施設の紹介 ・専門科目カリキュラムガイダンス ・実教ガイダンス(1週目分) ・ものづくり体験 ※内容・担当は各学科に委ねる。ただし、専門科目カリキュラムガイダンスは必ず実施すること		
3	※留年生面談は始業式後に別途実施(担任)	アンケート(担任:HR) 11:20~12:05 ・入学生アンケート、UPI ※生活学習意識調査は実施しない			
4	学力診断テスト(担任:HR) ・数学(5分+50分) 11:10~12:05 ・理科(5分+50分) 13:55~14:50	学習ガイダンス(教養:合同) 12:50~13:35 ・数学、物理、英語の勉強の仕方			
5	※最初の5分で氏名等を記入	制服ガイダンス(学生:合同) 13:45~14:30 ・新制服の着付けについて	スマホ講座(学生:合同) 13:45~14:30 ・スマホ使用上の注意等		
6	LHR(担任:HR) 15:00~15:25 ・翌日の連絡等	LHR(担任:HR) 14:40~15:25 ・翌日の連絡等	LHR(担任:合同:HR) 14:40~15:25 ・大山オリエンテーションの説明等		
7	女子学生ガイダンス(学生:合同) 15:35~ ※女子のみ	電子辞書講座(教養:合同) 15:35~ ※電子辞書所有者のみ			
放課後					産止したガイダンス等 ・キャリア支援ガイダンス ・情報端末ガイダンス ・体育施設ガイダンス ・生活学習意識調査 ・留年生対象教務主事面談 新規ガイダンス等 ・学習ガイダンス ・最終時間のLHR(2日目、3日目) ・制服ガイダンス ・スマホ講座

14

教員会議資料
26.4.2
8

※ 修学ガイダンス対応と2年生以上の授業が重複する場合、①授業振替、②補講措置等でご対応ください
 ※ 1年生の科目担当はシラバス1週目に「修学ガイダンス」とご記載ください
 ※ 「修学ガイダンス」期間中の欠席は、該当する曜日・時間における通常授業の欠席


(出典 平成26年4月2日教員会議資料)

**平成26年度
修学ガイダンス**
 [教務部]

2014/4/8(火)9:00~10:20
合同講義室

教務ガイダンス

0. 本校の目標について
1. 授業について
2. 教室での生活
3. 試験について
4. 成績と単位
5. 進級に必要な単位



(出典 平成26年4月8日
修学ガイダンス説明パワーポイント抜粋)

資料 1 - 2 - ① - 15
 平成 26 年 4 月 24 日
 健康の日スケジュール

(3) 検査スケジュール

学年	SHR・9時～	2時限	3時限	4時限	12時10分～	休憩	13時20分～	6時限	7時限
1		・胸部X線[玄関前] (ME男→ME女→DCA女→DCA男)	・聴力[図書館2F創造ゼミ2] ・視力[武道場] ・身体計測[第2体育館] (M, E, D: 聴力→視力→身体) C, A: 身体→聴力→視力)					・歯科検診 [小会議室] (M→E→D→C→A)	・内科検診※2 [男子: 欄外に記載] 女子: 保健室] (M→E→D→C→A)
		・心電図 [男子: 大会議室, 女子: 選択1] (D, C, A男女→M, E男女)							
2		・貧血検査[物理実験室] ・歯科検診[小会議室] (M, E: 歯科→貧血) (D, C, A: 貧血→歯科)	・身体計測[第2体育館] ・視力[武道場] (M, E, D: 視力→身体) C, A: 身体→視力)				健康講話※1 13時20分～14時10分 [合同講義室]	・内科検診※2 [男子: 欄外に記載] 女子: 保健室] (M→E→D→C→A)	
3		・視力[武道場] ・身体計測[第2体育館] ・聴力[図書館2F創造ゼミ2] (M, E: 視力→聴力→身体) (D, C, A: 聴力→視力→身体)	・内科検診 [講義室1・選択2] (M→E→D→C→A)				健康講話※1 [第1体育館]		
4		・身体計測[第2体育館] ・視力[武道場] ・歯科検診[小会議室] (M, E, D, C, A: 身体→視力→歯科)	・心電図 [男子: 大会議室, 女子: 選択1] ・血圧測定[物理実験室] (M, E: 心電図→血圧) (D, C, A: 血圧→心電図)				・内科検診※2 [男子: 欄外に記載] 女子: 保健室] (C→A→M→E→D)	J A B E E 説明会※3 インターンシップ説明会※4 [4年各教室]	
5		健康講話※1 9時～10時30分 [合同講義室]	・歯科検診 [小会議室] (M→E→D→C→A)						
専1		特別研究	・胸部X線[玄関前] ・身体計測[第2体育館] ・視力[武道場]				大学・大学院説明会 [オープンシアター・専攻科講義室]		
専2		特別研究							

※1 健康講話 2年 5時限 「食事と健康」 講師 管理栄養士 阿部 暁子 氏
 3年 5,6時限 「救急講演」 講師 米子消防署
 5年 1,2時限 「いのちを繋ぐ医療とは?～移植医療の視点から～」
 講師 鳥取県臓器移植コーディネーター 永栄 幸子 氏

※2 内科検診(午後) 4年→2年→1年の順で実施。男子は講義室1・選択2・選択3・大会議室のいずれかで検診。

※3 J A B E E説明会[M, E, D, C→14:20に合同講義室集合,
 A→内科検診終了後に建築学科棟3Fプレゼン室集合]

※4 インターンシップ説明会 M, E, D, C→15:00から実施。A→J A B E E説明会が終わり次第実施。

資料 1 - 2 - ① - 15

平成 26 年 4 月 24 日 JABEE 説明会資料抜粋

J A B E E (日本技術者教育認定制度)
 Japan Accreditation Board for Engineering Education
に関する説明会 4 A 建築学プログラム用

JABEEホームページ <http://www.jabee.org/>
 米子高専JABEEホームページ
<http://www.yonago-k.ac.jp/jabee/>

JABEE委員会
 2014/04/24

日本技術者教育認定機構(JABEE)について 2003.06.25 1

本校の目的、専攻科の目的

- ▶ 米子工業高等専門学校は、教育基本法(昭和 22 年法律第 25 号)の精神にのっとり、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に基づいて、**深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。**
- ▶ 専攻科は、高等専門学校における教育の上に、**精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する創造性豊かな人材を育成することを目的とする。**

日本技術者教育認定機構(JABEE)について 2003.06.25 2

本校の教育理念

- ▶ 我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える**創造性に富んだ技術者を養成**するため、**地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育**を行う。

養成すべき人材像

- ① 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
- ② 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
- ③ 主体的に問題を発見し、それを解決していく能力を有する人材
- ④ 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
- ⑤ 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

日本技術者教育認定機構(JABEE)について 2003.06.25 3

学習・教育目標

- ▶ A 技術者としての基礎力
- ▶ B 持てる知識を使う応用力
- ▶ C 社会と自らを高める発展力
- ▶ D 地球の一員としての倫理力
- ▶ E 社会とかわかるとのコミュニケーション力

達成目標(本科生)

- ① 学び習得した知識を適切に表現し、活用することができる。【A】
- ② 実験等で得られた結果について、すでに学んだ知識をもとに分析し、報告することができる。【B】
- ③ 関心のある分野について継続的に学習していくことができる。【C】
- ④ 地球や地域の環境保全を念頭に置きながら、社会生活を送ることができる。【D】
- ⑤ 日本語及び英語の資料等を読み、適切に理解することができる。【E】
- ⑥ 自らの考え等について分かりやすく関係者に説明することができる。【E】

日本技術者教育認定機構(JABEE)について 2003.06.25 4

本科 進級・課程修了の認定について
 ～学生便覧より～

第11条 学年の課程修了の認定は、認定会議に付し校長が行う。
 2 次の各号の一に該当するものは、原則として課程の修了を認めない。

(1) 評価しない科目のある者
 (2) **次の表の学年に対応する単位を修得できなかった者**

学年	単位数
1学年	27以上(うち一般科目20以上)
2学年	61以上(うち一般科目46以上、専門科目5以上)
3学年	95以上(うち一般科目61以上、専門科目24以上)
4学年	130以上(うち一般科目70以上、専門科目50以上)
5学年	167以上(うち一般科目75以上、専門科目82以上)

(3) **欠課時数**(学校行事・特別活動の欠課時数を含む。)を1日7時間の割で換算した日数が、**出席すべき日数の5分の1を超える者**ただし、病気その他の理由により、やむを得ないと認定会議で認められた場合にあつては、3分の1を超える者(長期にわたる病気による欠席日数が、3分の1を超える場合であっても、特別な状況にあると認定会議で認められた者を除く。)

日本技術者教育認定機構(JABEE)について 2003.06.25 5

本科 進級・課程修了の認定について
 ～学生便覧より～

(4) **特別活動の欠課時数が年間授業時数の5分の1を超える者**ただし、病気その他の理由により、やむを得ないと認定会議で認められた場合にあつては、3分の1を超える者(長期にわたる病気による欠席日数が、3分の1を超える場合であっても、特別な状況にあると認定会議で認められた者を除く。)

(5) **学校行事への参加が著しく不良の者**

日本技術者教育認定機構(JABEE)について 2003.06.25 6

(出典 平成 26 年 4 月 24 日 JABEE 説明会資料抜粋)

資料 1 - 2 - ② - 1

YONAGO KOSEN GUIDEBOOK 2015



- 機械工学科
- 電気情報工学科
- 電子制御工学科
- 物質工学科
- 建築学科

- 専攻科
 - 生産システム工学専攻
 - 物質工学専攻
 - 建築学専攻



国立米子工業高等専門学校
(出典 平成 27 年度学校案内)

資料 1 - 2 - ② - 1

国立米子高専の教育制度

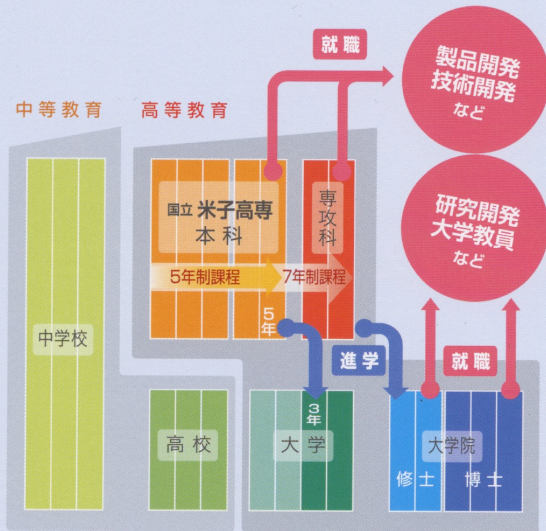
世界にも類を見ない ユニークな学校制度

国立米子高専は、
大学の部類に入る
高等教育機関。

米子高専は、中学校から入ることができる理工系の 高等教育機関です。5年制と7年制の教育課程があり、日本の産業や科学技術を担うエンジニアや研究者に必要な高度な専門的知識と技術を学び、日本と地域社会の発展に貢献する資質や力を養います。

- 本校の目的
教育基本法の精神にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
- 本校の教育理念
我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う。

高専の5年制課程を卒業すると、就職の他に国立大学等の3年次へ編入学することができます。また、さらに2年間を学ぶ本校の7年制課程に進学すると、専門性に一層の磨きがかかるとともに、大学卒と同じ資格(学士)を取得することができます。その後、就職と他大学大学院への進学の2つの道があります。



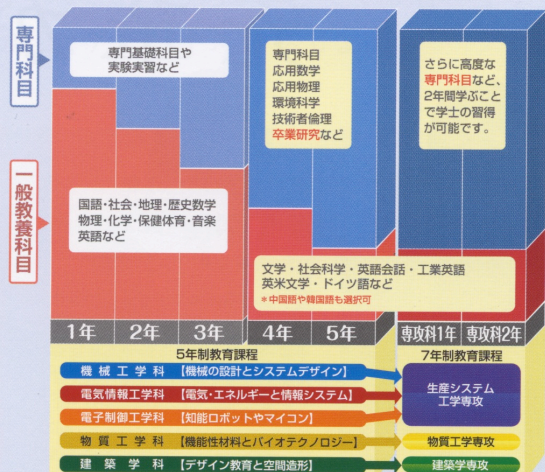
国立米子高専のカリキュラム

5年間で大学工学部と同等の 知識や技術を学びます

教員の約70%が
博士号取得者!

1学年から5学年にわたって一般教養科目と専門科目を相互に関連付けてバランスよく配置し、教養と専門の両方の知識が身につけられるよう教育効果を高めています。とくに実験・実習を重視した教育を通して、創造的で実践的なエンジニアや研究者を育てます。

- Q. 米子高専はどこにありますか?
A. 鳥取県米子市です。自宅から遠い方のために、男女とも、学校の敷地内に寮が用意されています。
- Q. 理科や数学が少し苦手ですが、入学しても大丈夫ですか?
A. 定期試験の前には、低学年の学生のために勉強教室なども開いています。コツコツ勉強すれば大丈夫です。
- Q. 卒業後の就職・進学状況はどうか?
A. 大学や高校に比べると求人倍率はケタ違いに高く、一流企業を始めとして就職はたいへん恵まれています。国立大学の3年次編入学も、たいへん有利です。
- Q. 女子が入学しても大丈夫ですか?
A. 現在、女子学生の割合は全校では約2割ですが、物質工学科、建築学科では約5割を占め、男子学生と同等の活動をしています。女子トイレ、女子更衣室などの設備が整っています。1年生には女子学生のためだけの保健体育の授業があります。卒業後の女子学生の進路もしっかり確保されています。



(出典 平成 27 年度学校案内)

資料 1 - 2 - ② - 2

平成 2 7 年度 編入学生募集要項 入 学 案 内

願 書 受 付 期 間	平成 2 6 年 7 月 3 0 日 (水) ~ 平成 2 6 年 8 月 4 日 (月) (受付最終日は午後 4 時必着のこと)
検 査 日	平成 2 6 年 9 月 3 日 (水)
合 格 発 表 日 時	平成 2 6 年 9 月 1 0 日 (水) 午前 1 0 時
入 学 確 約 書 提 出 期 限	平成 2 6 年 9 月 1 7 日 (水)

独立行政法人 国立高等専門学校機構
米子工業高等専門学校
学生課教務・キャリア支援係

〒683 - 8502 鳥取県米子市彦名町4448

電 話 0859 - 24 - 5022

F A X 0859 - 24 - 5029

ホームページ <http://www.yonago-k.ac.jp/>

(出典 平成 27 年度編入学生募集要項・入学案内 表紙)

編入学案内

1 本校概要

本校は、昭和 39 年 4 月に設置された国立の工業高等専門学校で、5 年間の一貫教育によって豊かな教養と高度な専門技術を具備した有能な技術者を育成することを目的としています。

卒業生の大半は就職して産業界で活躍していますが、進学を希望する者には多くの国立大学に編入学する道が開かれています。進学した学生の大部分は大学院へも進み、学術研究に励んでいます。

また、平成 16 年には大学学部と同等の教育研究機能をもつ 2 年制の専攻科が設置され、学士学位の取得が可能となり、より高度な技術・研究者を養成するとともに、大学院への直接進学もできることとなりました。

(1) 本校の目的

- ・ 米子工業高等専門学校は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
- ・ 専攻科は、高等専門学校における教育の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

(2) 本校の教育目標

① 教育理念

我が国の将来を担うものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ技術者を養成するため、地域社会と連携し、実験・実習を重視した実践的な技術教育を行う。

② 養成すべき人材像

本校では、この教育理念に基づき、次のような人材を養成することを目標にしています。

- ア 豊かな感性と高い倫理観に裏打ちされた幅広い教養を持つ人材
- イ 専門的知識と技術を活用して、実践的なものづくりを行える人材
- ウ 主体的に問題を発見し、それを解決していく能力を有する人材
- エ 環境保全も視野に入れて国際的に活動するとともに、地域への貢献が果たせる人材
- オ 幅広い工学知識を複合させ、活用できる人材

(3) 学習・教育目標

本校では、上記の人材を養成するため、学生が身につけるべき能力として次の学習・教育目標を定めています。

- A 技術者としての基礎力
- B 持てる知識を使う応用力
- C 社会と自らを高める発展力
- D 地球の一員としての倫理力
- E 社会とかわるためのコミュニケーション力

(4) 学科および専攻ごとの教育目標

・教養教育科

教養教育科は、専門教育を習得するための基礎的な能力を育成するとともに、社会人として必要な知識、技術を教授し、人格を形成し、教養を豊かにし、国際社会の中で活躍できる有為な人材を育てる。

・機械工学科

機械工学科は、機構、構造、材料などの運動や力学に関する基礎知識を基に、機械システムを設計・開発する能力を有し、更にこのシステムをコントロール可能な機械制御システムとして扱うことができる実践的技術者の養成を目標とする。

資料 1 - 2 - ② - 2

- ・電気情報工学科

電気情報工学科は、電気エネルギーから情報通信に至るまで、電気・電子・情報関連の幅広い知識や技術を習得し、設計、開発、管理などの業務に従事できる実践的技術者の養成を目標とする。

- ・電子制御工学科

電子制御工学科は、コンピュータおよびロボット制御に関する専門的知識と技術を「情報」、「電気・電子」、「メカトロニクス」の各分野について幅広く修得することにより、ものづくりの基盤技術を支える創造性に富んだ実践的技術者の養成を目標とする。

- ・物質工学科

物質工学科は、化学及び生化学を基盤とし、それらから派生する工学の基礎知識と技術を備えた実践的技術者の養成を目標とする。

- ・建築学科

建築学科は、社会環境及び建築技術の革新に合わせた知識・技術を習得し、建築の企画、設計、生産に従事する創造的な実践的技術者の養成を目標とする。

- ・生産システム工学専攻

生産システム工学専攻は、本科で学んだ機械工学、電気情報工学、電子制御工学分野の基礎知識と技術を基に、他分野の幅広い知識を修得し、学際的な技術分野における問題解決能力を備えた実践的開発型技術者の養成を目標とする。

- ・物質工学専攻

物質工学専攻は、材料工学及び生物学に関する基礎的な知識・技術と、それらを個別の問題に対して応用・発展させることのできる力を身につけ、幅広い視野に立って総合的な問題解決ができる実践的開発型技術者の養成を目標とする。

- ・建築学専攻

建築学専攻は、建築・都市・地域計画、建築環境及び建築構造に関する高度な知識と技術を身につけ、幅広い視野に立って問題解決できる創造性に富んだ実践的開発型技術者を養成することを目標とする。

(5) 達成目標

本校では、上記の学習・教育目標に基づき本科卒業時及び専攻科修了時において、学生が具体的に身に付けるべき能力として次のような達成目標を定めています。

【 】内の記号は、上記の学習・教育目標との対応を示しています。

【本科学生の達成目標】

- ① 学び習得した知識を適切に表現し、活用することができる。【A】
- ② 実験等で得られた結果について、すでに学んだ知識をもとに分析し、報告することができる。【B】
- ③ 関心のある分野について継続的に学習していくことができる。【C】
- ④ 地球や地域の環境保全を念頭に置きながら、社会生活を送ることができる。【D】
- ⑤ 日本語及び英語の資料等を読み、適切に理解することができる。【E】
- ⑥ 自らの考え等について分かりやすく関係者に説明することができる。【E】

【専攻科学生の達成目標】

- ① 工学に関する様々な問題等を自ら発見することができる。【A】
- ② 発見した問題を解析し、自ら設定した行動計画の下で解決することができる。【B】
- ③ 専門的な英語の文献等を読み、理解することができる。【E】
- ④ 自らの専門的知識・技術及び関連する分野の知識について、時代の進展に対応し、フォローアップすることができる。【C】
- ⑤ 持続可能な社会を念頭に置きながら、仕事その他の社会生活を送ることができる。【D】
- ⑥ 問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞きながら適切に作業を進めることができる。【E】
- ⑦ 専門分野の課題について報告書等を作成し、適切な資料を用いて関係者に分かりやすく説明することができる。【E】

独立行政法人 国立高等専門学校機構
高専 国立米子工業高等専門学校
 Yonago National College of Technology

資料 1 - 2 - ② - 3

検索

▶ 入学を希望される方 ▶ 地域社会の方 ▶ 企業の方 ▶ 卒業生の方 ▶ 同窓会 ▶ 在学生の方

米子高専紹介コーナー

ホーム > 入学案内 > 平成27年度入試日程

50th 国立米子工業高等専門学校 創立50周年記念事業

2012 高専制度創設50周年

デザインコンペティション2013 米子

米子高専 虎の巻

RADIO CM DARAZ FM & 放送部

卒業生 メッセージ

CONTENTS

- ▶ ホーム
- ▶ 学校案内
- ▶ About YNCT
- ▶ 専攻科案内とシラバス
- ▶ 学科案内とシラバス
- ▶ 入学案内
- ▶ JABEE
- ▶ キャンパスライフ
- ▶ 学生の活躍
- ▶ 各種講座案内
- ▶ 産学連携・地域サービス
- ▶ 後援会
- ▶ 同窓会
- ▶ 保護者の方へ
- ▶ 新型インフルエンザ対応
- ▶ 情報公開
- ▶ 教育・研究
- ▶ 外部評価・自己点検評価
- ▶ 本校の取組み
- ▶ 施設
- ▶ 採用情報
- ▶ リンク集
- ▶ アクセス
- ▶ 利用者別メニュー
- ▶ 第49回中国地区高等専門学校体育大会(冬)

【平成27年度入試日程】

※日程等は決定次第順次公開します。

試験区分	募集学科・専攻名 及び募集人員	受付期間	試験日	合格発表日
本 科 * 学生募集要項(PDF) * 学習成績分布表様式(Excel) * パンフレット(PDF) * 平成25年度より 入試制度を改定します。	機械工学科 40名 電気情報工学科 40名 電子制御工学科 40名 物質工学科 40名 建築学科 40名	推薦による選抜 平成27年1月5日(月) ～1月8日(木)	平成27年 1月20日 (火)	平成27年 1月26日 (月)
		学力検査による選抜 平成27年1月27日(火) ～2月2日(金)	平成27年 2月15日 (日)	未定
第4学年編入 * 学生募集要項(PDF)	機械工学科 若干名 電気情報工学科 若干名 電子制御工学科 若干名 物質工学科 若干名 建築学科 若干名	学力検査選抜 平成26年7月30日(水) ～8月4日(月)	平成26年 9月3日 (水)	平成26年 9月10日 (水)
専攻科 * 学生募集要項(PDF) * 専攻科パンフレット(PDF)	生産システム 工学専攻 12名 物質工学専攻 4名 建築学専攻 4名	推薦選抜 平成26年5月2日(金) ～5月9日(金)	平成26年 5月17日 (土)	平成26年 5月23日(金)
		学力検査による選抜 平成26年11月5日(水) ～11月10日(月)	平成26年 11月27日 (木)	平成26年 12月4日 (木)
		社会人特別選抜 平成26年11月5日(水) ～11月10日(月)		

※第3学年編入学試験〔外国人学生対象〕
 外国人学生を対象とした、国立高等専門学校第3学年編入学試験を実施します。
 詳細は「国立高専機構」のホームページに掲載されていますので、そちらをご覧ください。
<http://www.kosen-k.go.jp/hennyugaku.html>

【入試に関する資料請求方法】

直接来校されるか、請求資料名を明記の上、角型2号の返信用封筒（下記料金分の切手を貼り、「ゆうメール」と朱書きしてください）を同封し、下記住所宛に郵送してください。

- 学生募集要項 1部 180円 2部 215円
- 学生募集要項 + 学校案内パンフレット 各1部 215円
- 学生募集要項 + 学校案内パンフレット 各2部 300円
- 第4学年編入学生募集要項 1部 180円 2部 215円
- 第4学年編入学生募集要項 + 学校案内パンフレット 各1部 215円
- 第4学年編入学生募集要項 + 学校案内パンフレット 各2部 300円
- 専攻科募集要項 1部 180円 2部 215円
- 専攻科募集要項 + 専攻科案内パンフレット 各1部 180円
- 専攻科募集要項 + 専攻科案内パンフレット 各2部 300円

請求先 〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448
 米子工業高等専門学校 学生課教務・キャリア支援係

その他質問等ございましたら、0859-24-5022（教務・キャリア支援係）までお問い合わせください。

（出典 校外 Web ページ 入学案内）